

ギターリストのための

表現能力開発エッセンド

解説書

著者・譜面作成：トモ藤田

目次

はじめに 3

ETUDE 1

2コードによるグルーヴ・エチュード

variation 1	コード感溢れる3度のフレーズ	4
variation 2	コード感溢れる6度のフレーズ	6
variation 3	ブルージーなフレーズ(コモン・トーン/ベンド/ビブラート/アウトライン)	8
variation 4	シンプルなグルーヴで一人バンド・サウンドを生み出す	10
variation 5	1拍ずつのコード・チェンジでグルーヴを歌わせる	11
variation 6	ハーモニーを感じさせる感情表現豊かなソロ	12

ETUDE 2

3コードのブルース・エチュード

variation 1	ベースラインを使ったブルース表現	14
variation 2	3rdと7thのガイド・トーンを使ったブルース表現	16
variation 3	1弦コモン・トーンを使ったハーモニーの表現	18
variation 4	少ない音数でブルースを歌う	20
variation 5	トライアドでコード感を出す	22
variation 6	ソロとガイド・トーンによるコール&レスポンス	24

ETUDE 3

ファンク1発ものエチュード

variation 1	クラーヴェ・グルーヴ(基本ファンク・グルーヴ)	26
variation 2	フレーズとフィルによるコール&レスポンス	27
variation 3	トップ・ノートを使ったコード・メロディー	28
variation 4	ドリアン・グルーヴ	29
variation 5	ダイアトニックのドリアン・トライアド	30
variation 6	R&Bヴォーカルのように歌うフレーズ	31

ETUDE 4

ジャズ・スタンダードのコード進行エチュード

variation 1	3音(Root/3rd/7th)によるハーモニー	32
variation 2	2弦トップによる4音テンション・コードのアイデア	34
variation 3	1弦トップによるトライアド・コードのアウトライン	36
variation 4	ブルース/ロック風ペンタトニックでジャズ・プレイ	38
variation 5	ペンタ/リフ感覚で弾けるジャズ・フレーズ	40
variation 6	ウォーキング・ベースラインとコンピング	42

デモ演奏について 47

CDインフォ&通信レッスン紹介 48

はじめに

皆さんのお陰で“演奏能力シリーズ”も大好評となりました。シリーズとしても増えましたし、皆さんに大きな感謝です。

僕自身の経験上、また自分の生徒を見ていて感じることは(みんな真面目にがんばって練習してますが)、パターンとかアイデアそのものに気が入り過ぎで、意外に一番大切なトーンの表情が少なく、表現に欠けた演奏になっていることがあります。

そこで今回のテーマは、ギターを弾く上でとても大切な、“表現能力を高める”ために、今までの「演奏能力」の“エクササイズ”に対して、「表現能力」にフォーカスして“曲として”また“エチュード”としてまとめてみました。

これらのエチュードは、今までにバークリーのクラスやレッスン、また通信レッスンでも効果があったものを中心に、大きく4つのエチュードで各エチュードに対して6つのバリエーション、つまり合計24個のバリエーションを作りました。

これらのエチュードは、曲をベースに考えてありますから、そこから応用・発展も可能なプレイをたくさん用意しました。

皆さんもこれらのエチュードを楽しく弾いて、ご自分の表現能力の開発、がんばってやりましょう!

それでは、この解説書についても少しお話しておきます。

今回はエチュードの各バリエーションで、<目標><ポイント><Tomo'sアドバイス>という三種類の解説を加えました。

また、各バリエーションをプレイする際に役立つお薦めエクササイズとして、これまで作ってきた作品の中から、いくつかのエクササイズをリンクとして紹介したのが、<Tomo's おすすめリンク>です。各バリエーションをプレイする上での復習として、これらのエクササイズをもう一度練習してみることをお薦めします。

DVDの各エチュードの最後には、それまで紹介した各バリエーションのアイデアを始め、いろんなアイデアをちりばめたデモ演奏が収録されてますが、これらはトモ流の「エチュードを発展させたデモ演奏例」ということで、あえて譜面にはしていません。これらをコピーするよりも、これらをヒントにして、エチュードを練習した皆さんそれぞれが、自分なりに発展させたプレイを考えて楽しんでみてほしいと思います。

いつものように、譜面は僕が作成したオリジナル・スコアを使用しています。なるべくシンプルで見やすい形にしてありますが、DVDにおける実際の演奏では、微妙に異なるところもあるかと思います。今回のエチュードの目的は「表現能力開発」ですから、みなさんも譜面だけにとらわれて細かい点だけにこだわらず、譜面通りに弾きつつも、表現豊かなプレイを目指すことに集中してください。

トモ藤田

ETUDE 1 2コードによるグルーヴ・エチュード

variation 1

コード感溢れる3度のフレーズ

♩ = 46

G7 C7(9)

G7 C7(9) G7

C7(9) G7 C7(9)

G7 C7(9) G7

C7(9) G7 C7(9)

G7 C7(9)

G7 C7(9) G7

目標

普通、G7とC7のコードの上で適当にペントニックとかをアドリブで弾くと、なんとなく合っているようで問題もないように思えます。でも、コード感のある演奏をするためには、コード感をうまくコントロールして出すことが必要です。よって、このエチュードでは、各コードのサウンド(この場合は、ミクソリディアン・スケールであるRoot・2nd・3rd・4th・5th・6th・b7th)を3度インターバルのパターンにして、上行または下行のフレーズとしてコントロールできることが目標です。これらができるようになると、ソロにおいてもコード感や方向性がクリアになります。

ポイント

各コードのカラーを的確に感じるためには、ゆっくり度数を理解することがとても大事です。コードに対して最初はゆっくり弾いて、歌えるぐらいにして3度のインターバルの響きをしっかり理解することがポイントです。

Tomo'sアドバイス

ここで示したフィンガリング以外にも、異なるポジションや異なる弦、そして異なる指使いがあります。よって、このバリエーションに慣れたら、キーを変えたり、自分の知らないポジションを研究することが大切です。また、ソロを弾く前に、コードそのものをたくさん弾き、コードの響きやリズム・ギターそのものも楽しんでみてください。

Tomo'sおすすめリンク

- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ」 → exercise 8a&b
- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ2」 → exercise 2a, 4b, 20
- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ3」 → exercise 19a&b
- CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」 → CD TRACK 11, 12
- CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 → 改革14, 15

variation 2

コード感溢れる6度のフレーズ

♩ = 46

G7 C7(9)

G7 C7(9) G7

C7(9) G7 C7(9)

G7 C7(9) G7

C7(9) G7 C7(9)

G7 C7(9) G7

C7(9) G7

目標

各コードを、ミクソリディアン音だけで6度インターバルのパターンにして、コード感を出せるようにすることが目標です。ここでは、上行のみ、下行のみ、上行～下行、下行～上行といったフレーズをコントロールできるようにしましょう。これができると、コードからコードへのサウンドをフレーズによって演出することができます。

ポイント

トップの音が上行の場合はRoot・2nd・3rdになり、下行の場合はRoot・7th・6thになりますから、このサウンドのカラーをよく感じ取ってください。ここでも、度数の理解がとても大事です。常にコードと関連させて、サウンドを感じて弾きましょう。

Tomo'sアドバイス

ここでは、1弦と3弦のパターンを紹介しましたが、音域にもよりますが、同じフレーズを1弦と2弦で弾くことも可能です。特に、この6度のフレーズにクロマチックが入る場合は、弦が隣同士になるほうが弾きやすいです。また他に、2・4弦、3・5弦、4・6弦でも弾けます。いろいろと自分なりに研究して、知らなかった運指に慣れていきましょう。

Tomo'sお勧めリンク

- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ2」 → exercise 4e, 21
- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ3」 → exercise 21a-c
- CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 → 改革33, 34

variation 3

ブルージーなフレーズ(コモン・トーン/ベンド/ビブラート/アウトライン)

System 1: Treble clef, 4/4 time. Chords: G7, C7, G7. Fingering: 3-5-3, 3-3, 3-5-3, 3-3, 3-5-3, 3-3, 3-5-3.

System 2: Treble clef, 4/4 time. Chords: C7, G7, C7, G7. Includes "Slow Bend" annotation. Fingering: 3-3, 7-9, 8-10(12), 10(11)10(11)10-8, 7-9, 8-10(12), 8-9.

System 3: Treble clef, 4/4 time. Chords: C7, G7, C7. Includes "Slow Bend" annotation. Fingering: 11(13)10(11)-8, 7-9, 8-10(12), 10(11)10(11)10-8.

System 4: Treble clef, 4/4 time. Chords: G7, C7, G7. Fingering: 7-9, 8-10(12), 8-9, 11(13)10(11)-8, 3-5-6-7-3, 3-5-4-5.

System 5: Treble clef, 4/4 time. Chords: C7, G7, C7. Fingering: 3-5, 3-2-5, 3-4-3-5, 3-5-6-7-3, 3-5-4-5, 3-5, 3-2-5.

■ 目標

まずは、コモン・トーン(ここではD・E・G音)の使い方をマスターします。G7に対して5th・6th・Root、C7に対して9th・3rd・5thを使い、リズムに弾きます。そこからベンドを使ってペントニックをブルージーに弾きつつ、そのフレーズの中でC7へ行く時に、C7の \flat 7thであるB \flat 音へのベンドやピッチをしっかりとコントロールして、コード感をコントロールします。

後半のフレーズは、実はベーシストもよく弾くし、ジミ・ヘンドリクスもよく使った、コードの音をアウトラインするコード感溢れるフレーズです。“ここに行くぞ”と自信を持ってフレーズを弾けることが目標です。

■ ポイント

コモン・トーンは同じ音であるため、どうしても“パターン”のようになってしまいがちですが、例え同じ音でも、G7に対してのカラー、C7に対してのカラーが体でわかるように、ゆっくり弾いて度数を味わってください。

真ん中のベンドを使ったフレーズも、同じくコードに対しての度数やカラーを感じ、左指をリラックスさせて気持ち良くビブラートをコントロールできるようにがんばってください。

■ Tomo'sアドバイス

アドリブをする時は、どうしてもスペースを埋めてフレーズを弾き過ぎてしまいますが、弾く前に弾きたいフレーズが歌えるか(聴こえているか)どうかをチェックしましょう。歌うフレーズを、感情込めて弾くことが大事です。シンプルなフレーズでも、カッコいいサウンドで弾けるようにがんばってください。

■ Tomo'sおすすめリンク

DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ」 →exercise 10a&b

DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ2」 →exercise 18

CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」

→CD TRACK 15、16、20、74

CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 →改革26、27

variation 4

シンプルなグルーブで一人バンド・サウンドを生み出す

Musical notation for variation 4, featuring guitar tablature and chord diagrams. The piece is in 4/4 time and consists of two lines of music. The first line starts with a G7 chord and continues with a B9 chord. The second line starts with a C9 chord and continues with F#7, G7, C, G7, and C chords. The tablature includes fret numbers and muting instructions (marked with 'x' and 'H').

目標

リズム・ギターを弾いても、なんとなくグルーブしてるようで、タイムがモタっているような…。これでは良いグルーブとは言えませんね。やはりコードをクリアに弾き、シンプルでタイトなドラムのようなグルーブを作ることが大事です。ですから、ここではシンプルなコードを使い、一人でリズム・ギターを弾いても、まるでバンドが演奏しているようなサウンドをクリエイトできるのが目標です。

ポイント

まずは、コードの音を一音一音きれいに鳴らすために、右手のストロークを大きめに振り、ミュートは全て左指で行います。スムーズなミュートのためにも、左指をリラックスさせて、両手のタイミングも無駄のない動きでできるように努力しましょう。

Tomo'sアドバイス

左指で全ての弦をミュートして、右手のストロークだけでもドラムのようなグルーブを生み出すことが大事です。グルーブしながら、2・4拍に少しアクセントを入れてみましょう。

Tomo'sお勧めリンク

- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ」 → exercise 15、19、デモ演奏3
- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ3」 → exercise 8、11、12
- CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」
→ CD TRACK 36、37、56、57
- CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 → 改革9、10、11

variation 5

1拍ずつのコード・チェンジでグルーブを歌わせる

Musical notation for variation 5, featuring guitar tablature and chord diagrams. The piece is in 4/4 time and consists of three lines of music. The first line starts with a G7 chord and continues with (B7) C7 and (F#7) chords. The second line starts with a G7 chord and continues with G7 and (B7) chords. The third line starts with a C7 chord and continues with (F#7) and G7 chords. The tablature includes fret numbers and muting instructions (marked with 'x' and 'H').

目標

ここではピアノやホーン・セクションのようにカラフルな流れになります。いろいろなヴォイスिंगが出てきますが、ここでは各コードのトップ・ノートが、ミクソリディアン音の音や、そのコードの音に移る経過音的なクロマチックも入っています。トップ・ノートを中心にコードが流れるように、またコードのグルーブを歌わせるようにコントロールできることが目標です。

ポイント

コードの動きはベースラインに合わせたり、メロディっぽくスムーズに動いていますが、ここでも各コードの音や度数を理解することが、コードを深く理解するためにも大切です。コードのヴォイスिंगに慣れると、トップ・ノートの動きを上行・下行させて、コードの流れをフレーズのようにコントロールできるようになります。

Tomo'sアドバイス

コードの動きが早いので、雑にならないように、最初はリズムやテンポをあまり気にせず、コード・ソロのように各ノートをゆっくりと丁寧に弾くことが大事です。そのためにも、なるべく左指に力が入らないように注意してください。

Tomo'sお勧めリンク

- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ」 → exercise 20
- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ3」 → exercise 25、26、27
- CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」 → CD TRACK 58、59、60
- CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 → 改革12、13

variation 6

ハーモニーを感じさせる感情表現豊かなソロ

Chords: G7, C7

Tablature (T, A, B):

8/12	10-12 10	12-8	12-12	8	8	6-5	3	3
9/12	10-12 10	12-9	12-12	9	9	7-5	3	5

Chords: G7, G7

Instruction: Slow Bend

Tablature (T, A, B):

5	3	1	0	10 (12)	10	8	9	7	8	8	10 (12)
5	3	2	0								

Chords: C7, G7, G7

Instruction: P

Tablature (T, A, B):

10	(11)	10	8	11	(13)	8	10	10	(11)	10	8	12	11	12	6	(8)

Chords: C7, G7

Tablature (T, A, B):

3	4	4	5	4	3	2	5	5	5	(6)	5	3	5	10	(12)	8	10	10	(11)	10	8	10	(13)	10	8	10	(11)	10

目標

最初のフレーズは、6度を使ったコードをアウトラインするアイデアで、メロディのように6度のフレーズを弾けることが目標です。

真ん中のフレーズは、フィーリングたっぷりのベンドや、ビブラートを使ったフレーズで、歌うようにフレーズを表現することが大事です。

最後のフレーズは、大きめのベンドとビブラートを使いながら、コードのアウトラインも織り交ぜたフレーズで、これができるとサックスのような流れるフレーズがこなせるようになります。

ポイント

全体に弾くタイミングが大事ですし、音の長さや各コードのダイナミクスの表情が豊かであることも、とても大事です。ベンドはピッチが安定してから、普通のベンド、ゆっくりめのベンドなどをリラックスしてコントロールすることが大切です。ビブラートも、すぐにかげず、少し音を伸ばしてから、ゆったりと自然な感じでかけてください。

Tomo'sアドバイス

“表情豊かな演奏”に集中してみてください。気持ちの良いビブラートというのは、なかなか難しいものですから、ゆっくりと研究してみてください。すぐにはできませんので、焦らずゆっくりと時間をかけて、良いトーンで弾けることを追求してください。

Tomo'sお勧めリンク

DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ」 →デモ演奏3

DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ2」 →exercise 6、18、22

CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」

→CD TRACK 22、74

CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 →改革18、19、22

ETUDE 2 3コードのブルース・エチュード

variation 1

ベース・ラインでブルースを表現

The musical score for Variation 1 consists of four systems of guitar notation. Each system includes a treble clef staff with a key signature of three sharps (F#, C#, G#) and a common time signature (C). The bass clef staff shows the bass line with fingerings. Chords are indicated above the treble staff: E7, A7, B7, and A7. The first system starts with a tempo marking of quarter note = 56 and a 3-measure rest. The second system has a 2-measure rest at the end. The third system has a 2-measure rest at the end. The fourth system has a 2-measure rest at the end. The score is divided into two sections: Idea #1 and Idea #2.

Idea #1

Idea #2

目標

ここでは、Eブルースのシャッフル・グルーヴを使い、ベースラインが弾けるようにします。コードが弾けるだけでなく、ある程度ベースラインが弾けることもギタリストにとっては大事なことです。ベースラインをコントロールできると、楽曲のフォームにも強くなり、ブルースの表現力のプラスになります。

ポイント

ここでも、ベースラインを度数やサウンドのカラーでしっかりと理解し、コードの動きと関連して学びましょう。また、弾いていない弦をいつもミュートするために、左指の動きをなるべく小さな動きにすることと、上行する時に、弾いていない弦を右手の腹でミュートします。僕は大概、左指1(人差し指)と4(小指)の指を中心に弦を押さえ、2(中指)と3(薬指)の指でミュートしています。

Tomo'sアドバイス

上行するラインもあれば、同じラインでもキーが変われば、時と場合によってRootから3rdに上行する場合と下行する場合がありますから、いろんな方向やキーや運指に慣れてください。形にあまりこだわりすぎないようにしましょう。Idea#1、#2では、コード感を出すベースラインにも取り組んでみてください。

Tomo'sお勧めリンク

- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ」 → exercise 23
- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ2」 → exercise 33
- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ3」 → exercise 17、18
- CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」
→ CD TRACK 30、31、63、64
- CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 → 改革2

variation 2

3rd と7thのガイド・トーンを使ったブルース表現

♩ = 56 E7

TAB 7 6 7 6 7 6 7 6 5 4

A7 E7

TAB 6 5 6 5 6 5 7 6 7 6 7 6

B7 A7 E7

TAB 8 7 8 7 6 6 5 6 5 7 6 7 6 6 5 7 6

Idea #1 E7

TAB 7 6 7 6 7 6 6 5

目標

ここではバンドの中でもよく使える、3rdと7thのガイド・トーンを使ったアイデアをマスターします。既にブルースは皆さんご存知だと思いますが、このようにE7からA7に移る際には、大きなコードで動かすよりも、3rdと7thのガイド・トーンを半音下げるだけでオケです。小さい動きでコード感が付けられ、アンサンブルのグルーブ感も増します。

ポイント

このアイデアは、左手のフォームで見ると各コードが全く同じなので、勘違いしやすいと思います。ですから、各コードの音名や度数などを深く理解することが、自然なブルース演奏のためにはとても大事です。

Tomo'sアドバイス

このキーでマスターできたら、GやB \flat など異なるキーやポジションからスタートすることに慣れましょう。ベーシックなブルースがマスターできれば、ジャズ・ブルースやジャズのスタンダードも同じように応用できます。また、ソロのアイデアにも最適です。Idea#1は、もっとミュートを入れたバージョンですが、ちょっとしたミュートのサウンドでドライブ感が出ます。

Tomo'sお勧めリンク

- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ」 → exercise 19
- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ3」 → exercise 11、12、16、17
- CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」 → CD TRACK 56、57、76、77
- CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 → 改革25、26

variation 3

1弦コモン・トーンを使ったハーモニーの表現

E9

T	7	7	7	7	6	7	7	7	7
A	7	7	7	7	6	7	7	7	7
B	6	6	6	6	5	6	6	6	6

A9 E9

T	7	7	7	7	6	7	7	7	7
A	8	8	8	8	6	7	7	7	7
B	7	7	7	7	5	6	6	6	6

B9 A9 E9

T	7	7	7	7	6	7	7	7	7
A	4	4	8	8	6	7	7	7	7
B	7	7	7	7	5	6	6	6	6

Idea #1 E9 A9 B9

T	7	5	7	9	7	9	R	7	R
A	7	9	8	b7	6	3	4	9	3
B	6	3	7	R	7	R	7	b7	b7

Idea #2 E9 Idea #3 E9 A9

T	7	7	7	7	7	7	7	7	7
A	7	7	7	7	7	7	8	8	8
B	6	6	6	6	6	6	7	7	7

目標

ここでは、1弦を同じトップ・ノート(B)にして、各コードのコモン・トーン(同じピッチですが、各コードの響きやカラーが違います)を使い、ブルースのコード表現をコントロールします。大きなコードを動かすことは簡単ですが、このように同じ音をトップにキープすると、動きがシンプルで、コードの中(内声部)の音がコードによって変化するので、ハーモニーの感覚がとてよくなります。

ポイント

ここでも度数やサウンドのカラーを理解しないと、どうしても左手のフォームやパターンとして見てしまいます。ですから同じBの音でも、E9に対して5th、A9に対して9th、B9に対してRootというように、同じ音が各コードで違う響きを持つことを改めて深く理解するようにしましょう。

Tomo'sアドバイス

この他にも、いろいろと似たようなアイデアで、同じ音を使って各コードを変化させたり、トップ・ノートをなるべく動かさないようにすることができますが、時に半音上げたり、半音下げたりするのも良いです。Idea#1では、各コードの度数を表にしました。Idea#2はミュートを入れた例。最初の4小節が1度7thで続く場合以外に、Idea#3のように1度7th/IV度7th/1度7thとなる場合もありますので、参考にしてください。

Tomo'sお勧めリンク

- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ」 → exercise 12、22、24
- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ3」 → exercise 26、27
- CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」
→ CD TRACK 18、27、62、65
- CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 → 改革23

variation 4

少ない音数でブルースを歌う

目標

ブルースのフレーズやソロは、歌ってないといけません。これは言葉で理解するものではなく、サウンドやニュアンスがとても大事です。そのため、ここで使う音はRoot・ \flat 3rd・4thから5thへのベンドのように、シンプルなものにしました。これはフレーズを歌うための例題ですから、間の取り方を感じ、弾く前に歌うようにして、まずはこれらをきちんと弾きこなし、リラックスしてベンドもビブラートも表現できるようにします。それによって、シンプルな歌うフレーズが表現できるようになります。

ポイント

あまり細かいことよりも、まずはサウンドに慣れて、口で歌えるようにします。ですから、あまりポジションを追わないようにしましょう。ベンドのタイミングやスピード、ビブラートの響きなども、演奏をよく聴いてサウンドで理解しましょう。早く覚えて、ピッチとリズムは正しく弾けるが表情に欠ける、というのはありがちなことですから、そうならないように注意してください。

Tomo'sアドバイス

ベンドやビブラートというのは、意外に難しいものですし、ただ単にエチュードを弾いているだけでは上達しません。やはり、ベンドのピッチ・コントロールと、自然できれいなビブラートは、それなりに時間をかけて研究し、練習しなければなりません。

Tomo'sお勧めリンク

DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ2」 → exercise 6、17、18

CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」

→ CD TRACK 70、71、72、73

CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 → 改革20、28

variation 5

トライアドでコード感を出す

E7

A7

E7 B7

A7 E7

Bend&Release

目標

ここでは、多少テクニカルになりますが、ブルースのコード進行上の各コードのトライアドが弾けて、コードの方向性がコントロールできるようにすることが目標です。これによって、トライアドを使って各コードのアウトラインがプレイできるようになります。

ポイント

このエチュードを丸覚えする前に、ある程度メジャーのトライアドが、1・2・3弦、2・3・4弦、3・4・5弦、4・5・6弦のどこでも、どの転回形でも、すぐに弾けるようにしたほうが良いです。つまり、何ごとも基礎が大事だということです。

Tomo'sアドバイス

同じ音でも、いろんなポジションや指使いがありますから、自分でもいくつかチョイスを持つことが大事です。キーを変えたり、いろいろと試して、自分なりに幅広いアイデアを作りましょう。

Tomo'sお勧めリンク

DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ2」 →19, 22

DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ3」 →22, 23, 25

CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」

→CD TRACK 74, 75

CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 →改革21

variation 6

ソロとガイド・トーンによるコール&レスポンス

♩ = 52 B^b7

TAB: 8 (9) 8 (9) 8 6 | 6 8 8 6 6 6 | 7 8 (9) 8 6

E^b7

TAB: 8 8 7 8 7 5 4 | 6 8 (9) 8 6 | 6 6 8 6 6 6

B^b7 F7

TAB: 7 8 (9) 8 6 | 8 8 7 8 8 7 | 8 8 (10) 8 7 6 5

E^b7 B^b7 (F7)

TAB: 8 (10) 8 6 8 6 8 | 7 8 | 6 8 8

目標

ソロとハーモニーをプレイしながら、一人でコール&レスポンスをするアイデアを紹介します。シンプルなメロディと、各コードの3rdと7thのガイド・トーンを使い、表情豊かなブルースを弾きましょう。ここでは、キーを変えてB^bでプレイしています。一人で弾いても常にブルースのハーモニーを表現し、またコール&レスポンスのような流れも付けて、フレーズの関連性を大事に、歌うようなフレーズを弾きます。これがコントロールして弾けるようになると、ブルースのソロの表現力が一層身に付いてきます。

ポイント

最初に出てくる半音のベンドが、しっかりと安定するようにします。また、3rdと7thの2音は、音量が大きくなるように注意します。これはフレーズに対してのレスポンスですから、全体的にもリラックスして、ソフトに弾きましょう。

Tomo'sアドバイス

僕の通信レッスンでもよく使う素材です。シンプルな中での表情やタッチなどを、細かく表現することに集中しましょう。アンプのボリュームを少し大きめにセットして、ピッキングをなるべくソフトに弾いてください。音の長さにも注意しましょう。

Tomo'sお勧めリンク

- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ」 →19
- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ2」 →19
- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ3」 →13、14、16
- CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」
→CD TRACK 56、57、76
- CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 →改革23、24

ETUDE 3 ファンク1発ものエチュード

variation 1

クラヴェ・グルーヴ(基本ファンク・グルーヴ)

The image shows musical notation for variation 1. It includes a guitar tablature (TAB) and a standard musical staff with a treble clef. The key signature is one flat (Bb) and the time signature is common time (C). The piece is in the Cm7 chord. The notation features a series of rhythmic patterns with accents (>) and slurs. Below the main notation, there is a smaller section showing a chord diagram for Cm7 and its corresponding TAB.

目標

ここでは、ファンクのグルーヴでよく使われるクラヴェというリズムに取り組みます。リズムは「タツツ・タツツ・タツツ・タツツ・タツツ」(または「タツツタ・ツツタツ・ツツタツ・タツツ」)となり、「タツツ」という3つの16分音符がリピートされます。これができることにより、シンプルなファンクのグルーヴがコントロールでき、他のリズムにも発展させることができます。

ポイント

右手は大きく振ってください。「タ」で弾き、「ツ」でミュートし、ゆっくりはっきりとコードを弾き、きれいにミュートするために左指の動きに注意しましょう。ミュート抜きのヴァージョンも、右手の振りが小さくならないようにしましょう。

Tomo'sアドバイス

コードの音が全て鳴っていないまま素早く音をミュートしようとする、トーンがきれいではないので、よくサウンドを確かめて練習しましょう。ちなみに、タオルをネックに掛けて例題を弾き(開放弦が完全に鳴ってもミュートされます)、タオルを取り外して同じものを弾く、というミュートのチェックの方法があります。その違いを理解しましょう。

Tomo'sお勧めリンク

- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ」 → exercise 15、16
- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ3」 → exercise 7、8、11、12
- CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」 → CD TRACK 36~43
- CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 → 改革9、10、11、12

variation 2

フレーズとフィルによるコール&レスポンス

The image shows musical notation for variation 2. It includes a guitar tablature (TAB) and a standard musical staff with a treble clef. The key signature is one flat (Bb) and the time signature is common time (C). The piece is in the Cm7 chord. The notation features a series of rhythmic patterns with accents (>) and slurs. Below the main notation, there is a smaller section showing a chord diagram for Cm7 and its corresponding TAB.

目標

バリエーション1の基本グルーヴをベースに、ここでは2小節のフレーズを作り、2小節ごとに少しフィルを入れます。全体のグルーヴの中にフィルを入れることにより、コール&レスポンスの効果が出せ、よりグルーヴを高めることができます。

ポイント

フィルは、2・3・4弦のトライアドを使っています。左指のミュートに慣れるために、最初はゆっくり弾きましょう。フィルは4つのアイデアを紹介しましたが、シンプルなものから始めてください。

Tomo'sアドバイス

決め手は、やはり左指のミュートなので、なるべく左指が不必要に上がらないように注意しましょう。また、ここでもタオル・ミュートで弾き比べをして、どれだけミュートのコントロールができていないか判断してください。

Tomo'sお勧めリンク

- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ」 → exercise 13、19、24
- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ3」 → exercise 5、10、22
- CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」 → CD TRACK 48、56、65
- CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 → 改革12、13

variation 3

トップ・ノートを使ったコード・メロディー

Musical notation for variation 3, featuring a C-7 chord and a melody line with guitar tablature below it.

目標

ここでは、1弦トップ・ノートをメロディのように動かして、1発もののグルーブの中でもハーモニーに変化を付け、ひとつのヴォイシング以外にチョイスをいくつか持つことが目標です。マイナー7thコードのグルーブ上で、11th、 \flat 3rd、9th、Rootというトップ・ノートの動きに合わせて、コード・メロディが弾けるようになります。

ポイント

ここでもまず、1弦トップの音の度数やサウンド・カラーと、コード各音の度数などを一層理解することが大事です。ゆっくりコードをアナライズしましょう。

Tomo'sアドバイス

1・2・3・4弦や1・2・3弦中心で弾きますので、なるべく右手のストロークで5・6弦をヒットしないように、ひんぱんに左指で5・6弦に触れてミュートするようにしましょう。そうすると開放弦が不必要に鳴らなくなり、全体に音がきれいになります。

Tomo'sお勧めリンク

- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ」 → exercise 12、22、25b
- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ2」 → exercise 14
- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ3」 → exercise 6、22、28
- CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」
→ CD TRACK 18、62、68
- CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 → 改革13、

variation 4

ドリアン・グルーブ

Musical notation for variation 4, featuring a Cm7 chord and a melody line with guitar tablature below it, including a section for C dorian 4th voicing.

目標

モードのドリアン・スケールをベースに、4度ずつ音を重ねたヴォイシングでグルーブしてみましょう。各ヴォイシングを学び、これらのコードがどこでも弾けるようにします(基本的にこの場合、Cのドリアンですから、C・D・E \flat ・F・G・A・B \flat ・Cに4度ずつで音を重ねたヴォイシングです)。コードとベースのリフで、ファンキーに弾きましょう。

ポイント

まずはグルーブする前に、各ヴォイシングを学びます。ゆっくり弾くことと、各音の度数をよく感じて弾きましょう。それからファンキーなリズムよりも、コードのサウンドを生かして音をサステインさせたりして、指弾きで弾いてみましょう。

Tomo'sアドバイス

コード表を見てください。カッコで書いてあるフィンガリングは、同じ音を違う弦で弾いたものです。ですから、一度全てのヴォイシングを2弦トップで弾けるようにしてから、次に1弦トップにして弾いてみましょう。同じ音でもトーンの変化が変わり、表現力が高まります。

Tomo'sお勧めリンク

- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ」 → exercise 17、18
- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ2」 → exercise 2b、4c、8
- CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」
→ CD TRACK 44~47、49~55
- CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 → 改革23、25、27

variation 5

ダイアトニックのドリアン・トライアド

Cm7

TAB: 3 5 6 8 10 11 13 15 / 4 6 8 10 11 13 15 16 / 5 7 8 10 12 14 15 17

Bb Diatonic Triads

Bb Cm Dm Eb F Gm A° Bb

TAB: 1 3 5 / 3 5 7 / 5 7 8 / 6 8 10 / 8 10 12 / 10 12 14 / 11 13 15 / 12 14 15

C Dorian Triad

Cm Dm Eb F Gm A° Bb Cm

TAB: 3 4 5 / 4 5 7 / 5 7 8 / 8 10 12 / 10 11 13 / 11 13 15 / 13 15 17 / 3 4 5

目標

キーがB \flat のダイアトニックのトライアドをCm7上で弾くと、全ての音がCm7のドリアン・モードの音になるので、僕はドリアン・トライアドと呼んでいます。このシンプルなダイアトニックのトライアドを、Cm7の上で弾けるようにします。これができると、ソロにも応用・発展が可能です。

ポイント

まずは、B \flat メジャー・スケールをベースにしたB \flat のダイアトニック・トライアドを、1・2・3弦上でマスターしましょう。これはシンプルですが、左手のフォーム以上に、しっかりと各度数を理解して、サウンドの響きやカラーを感じながら弾いてください。

Tomo'sアドバイス

コードは1・2・3弦で弾きますが、後半のソロ部分のアイデアは、1弦で2音、2弦で1音という組み合わせで弾いてます。詳しくは譜面を見たらわかりますが、この方がソロとしては弾きやすいですし、僕の好きなアイデアでもあります。

Tomo'sお勧めリンク

- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ」 → exercise 10
- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ2」 → exercise 7abc、8
- CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」 → CD TRACK 15、16、74
- CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 → 改革23、24

variation 6

R&Bヴォーカルのように歌うフレーズ

Cm7

TAB: 8 11 / 8 8 / 8 10 / 8 8 / 8 10 10

TAB: 8 11 / 8 8 / 8 10 / 10 (12) 8 / 8 11 / 8 10 10

目標

ギタリストは、ソロって考えるとすぐにスケールのパターンや左手のフォームに走ってしまいませんか？ ヴォーカリストはその反面、フレットも無いし、視覚的に考えないけど、常に感情豊かなトーンを先に求めます。ですから、ここではメロディのようにシンプルなりフを弾き、間(スペース)をうまくあけて、ヴォーカルのように歌い上げるフレーズを弾けるようにします。練習する時も、僕のデモ演奏と比べてください。

ポイント

譜面には詳しく書いてありますが、あまりガチガチに譜面のリズムにこだわらず、それよりもフィーリングを豊かに、各音に感情を込め、ダイナミクスつまり各音のタッチにも気を付けて、リズムに弾きましょう。

Tomo'sアドバイス

各音の弾き方は、多少タッチが違いますから、ピッチとリズムだけに合わせないようにして、音の表情によく注意して弾いてください。特に、同じリズムでも多少短くなったり、ゆったり長くなったり、ニュアンスが各音で変わりますから、微妙な違いの表現をがんばってコントロールできるようにしましょう。

Tomo'sお勧めリンク

- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ」 → exercise 17
- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ2」 → exercise 17、18
- CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」 → CD TRACK 44~47、70~73a
- CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 → 改革22、23、24

ETUDE 4 ジャズ・スタンダードのコード進行エチュード

variation 1

3音 (Root/3rd/7th)によるハーモニー

$\text{♩} = 62$ Cm7 F7 B♭Maj7 E♭Maj7

Am7(b5) D7 Gm7 G7

Cm7 F7 B♭Maj7 E♭Maj7

Am7(b5) D7 Gm7 Gm6

Am7(b5) D7 Gm7 G7

Cm7 F7 B♭Maj7 E7 E♭Maj7

Am7(b5) D7 Gm7 C7 Fm7 B♭7

E♭Maj7 Am7(b5) D7 Gm7 G7 Cm7

From 6th string root (R+7+3) From 5th string root (R+7+3)

variation 2

2音トップによる4音テンション・コードのアイデア

$\text{♩} = 62$ Cm7 F13 B♭Maj7 E♭Maj7

Am7(b5) D7(b9) Gm7 G7(b13)

Cm9 F13 F7(b13) B♭Maj9 B♭Maj7 B♭/E♭ E♭Maj6 (E♭Maj9)

Am7(b5) D7(#9) D7(b9) Gm7 Gm6

Am7(b5) D7(b9) Gm7 G7(b13) G7(b9)

Cm7 F7(b9) B♭Maj7 E7(9) E♭Maj7 E♭Maj9

Am7(#5) Am7(b5) D7(#9) D7(b9) Gm7 C9 Fm9 B♭13

E♭Maj9 Am7(#5) D7(#9) Gm7 G7(b13) G7(b9) Cm7

Idea #1 Am7 D7(b9) GMaj7

Idea #2 Am7 D7(b9) GMaj7

variation 3

1弦トップによるトライアド・コードのアウトライン

♩ = 62

Cm (Cm7) F (FMaj7) B^b (B^bMaj7) E^b (E^bMaj7)

A^o (Am7(b5)) D (D7(b9)) Gm (Gm7) G (G7)

Cm F B^b E^b

A^o D Gm Gm

Idea #1

♩ = 62 Cm F B^b E^b

A^o D Gm G

Cm F B^b E^b

A^o D Gm Gm

Idea #2

Cm F

Cm F

variation 4

ブルース/ロック風ペンタトニックでジャズ・プレイ

♩ = 62

Cm7 F7 B♭Maj7 E♭Maj7

Am7(b5) D7 Gm7 G7

Cm7 F7 B♭Maj7 E♭Maj7

Am7(b5) D7 Gm7

Slow Bend

Detailed description: This block contains four systems of musical notation for variation 4. Each system consists of a treble clef staff with a key signature of two flats (B-flat major/C minor) and a common time signature. Below each staff is a guitar tablature (TAB) line. The first system has four measures with chords Cm7, F7, B♭Maj7, and E♭Maj7. The second system has four measures with chords Am7(b5), D7, Gm7, and G7. The third system has four measures with chords Cm7, F7, B♭Maj7, and E♭Maj7, with a 'Slow Bend' instruction over the F7 measure. The fourth system has four measures with chords Am7(b5), D7, and Gm7. The TAB lines include various fret numbers, accidentals, and techniques like triplets and bends.

Idea #1

Cm7 5 4 9 R b7
F7 9 Rt 6 5 4

B♭Maj7 6 5 M3 9 Rt
E♭Maj7 M3 9 M7 6 5

Am7(b5) b7 b6 4 b7 b2
D7 4 #9 Rt b7 b13
Gm7 Rt b7 5 4 b3

Detailed description: This block contains three systems of musical notation for Idea #1. Each system consists of a treble clef staff with a key signature of two flats (B-flat major/C minor) and a common time signature. Below each staff is a guitar tablature (TAB) line. The first system has five measures with chords Cm7, F7, B♭Maj7, and E♭Maj7. The second system has five measures with chords B♭Maj7 and E♭Maj7. The third system has five measures with chords Am7(b5), D7, and Gm7. The TAB lines include various fret numbers, accidentals, and techniques like triplets and bends.

Idea #2

Detailed description: This block contains one system of musical notation for Idea #2. It consists of a treble clef staff with a key signature of two flats (B-flat major/C minor) and a common time signature. Below the staff is a guitar tablature (TAB) line. The notation includes various fret numbers, accidentals, and techniques like triplets and bends.

variation 5

ペンタ/リフ感覚で弾けるジャズ・フレーズ

♩ = 62 Cm7 F7 B♭Maj7 E♭Maj7

Am7(b5) D7 Gm7

G7 Cm7 F7

B♭Maj7 E♭Maj7 Am7(b5)

D7 Gm7 Gm6

Idea #1 Cm7 F7 B♭Maj7

Idea #2 G7

Idea #3 Am7(b5) D7 Gm7

variation 6

ウォーキング・ベースラインとコンピング

♩ = 62 Cm7 F7 B♭Maj7 E♭Maj7

TAB: 3 5 6 7 | 8 7 8 8 | 6 5 8 7 | 6 5 8 6

Am7(b5) D7(#9) Gm7 G7

TAB: 5 5 5 4 | 6 6 5 4 | 3 3 3 3 | 3 2 5 4

Cm7 F7 B♭Maj7 E♭Maj7

TAB: 3 5 6 7 | 8 7 8 7 | 6 5 8 7 | 6 5 8 6

Am7(b5) D7(#9) Gm7 Gm7

TAB: 5 6 8 4 | 5 4 5 4 | 3 5 6 5 | 3 2 3 4

Am7(b5) D7(#9) Gm7 G7

TAB: 5 6 8 4 | 5 4 5 4 | 3 5 6 5 | 3 5 6 7

Cm7 F7 B♭Maj7 E♭Maj7

TAB: 8 8 8 8 | 8 7 8 7 | 6 5 8 7 | 6 5 8 6

Am7(b5) D7(#9) Gm7 C7(9) Fm7(9) B♭7

TAB: 5 5 5 4 | 6 6 5 4 | 3 3 3 3 | 8 8 7 6

E♭Maj7 Am7(b5) D7(b9) Gm7

TAB: 8 7 8 8 | 5 5 5 4 | 6 5 4 3 | 5 5 5 5

variation 1 ■ 3音(Root/3rd/7th)によるハーモニー

■ 目標

ジャズを弾くためには、ハーモニーがとても大事な要素となりますが、いくらたくさん難しいコードを覚えても、知識だけで使えないというのはよくあることです。ここでは、シンプルな3つの音Root/3rd/7thを使い、6または5弦でルート音を、そして3・4弦で3rdと7thのハーモニーが弾けるようにします。全てのスタンダード曲で弾くことができる、ジャズの第一歩です。

■ ポイント

このコードの種類は、大きく3つあります。メジャー7th(Root/Maj3rd/Maj7th)、マイナー7th(Root/b3rd/b7th)、ドミナント7th(Root/Maj3rd/b7th)です。詳しくはコード表を見て、ここでも各コードの度数についてよく学びましょう。形だけで度数がわからないと意味がありません。

■ Tomo'sアドヴァイス

コード進行を見るとテンションがありますが、ここではシンプルなハーモニーを弾くために、テンション・ノートは省略します。ですから、Am7^(b5)は、b5を除いたRoot/b3rd/b7thを弾きますから、普通のマイナー7thコードでオクテーです。五線譜上の番号は、左手フィンガリングの指番号です。

■ Tomo'sお勧めリンク

- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ」 →exercise 19、20
DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ3」 →exercise 11、12、13
CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」 →CD TRACK 56、57、58、59
CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 →改革12、13

variation 2 ■ 2音トップによる4音テンション・コードのアイデア

■ 目標

ここでは、ジャズでよく使われる4音ヴォイスिंगでテンション(場合によっては5th)を入れて、少しカラフルにしてみましょう。トップの動きをバランス良くするために、2弦をトップにします。ゆっくり4音のジャズ・コードを楽しみつつ、コードの使い方に慣れましょう。これができると、他のスタンダード曲にも応用が可能です。

■ ポイント

トップの音があまり飛ばないような流れが理想です。ここでも、各音の度数をゆっくり理解して、ハーモニーを味わいながら学びましょう。また、コードの形に慣れるまではゆっくり弾き、なるべく音が短く切れないように注意してください。

■ Tomo'sアドヴァイス

ジャズらしいヴォイスिंग例です。ドミナントのb9thの使い方に関してですが、例えばディミニッシュ・コードをD7に対してb9th、Maj3rd、5th、b7thの音から弾くと、全てのコードがD7^(b9)のコード音になります。これは、ディミニッシュ・コードの音が、D7のMaj3rd、5th、b7th、b9thとなるからです。Idea#1は、その部分のコードを上行の流れにした例です。メロディのような流れです。Idea#2は、よく使われる下行の例です。このままですぐにコード・ソロっぽくできますから、ある意味でジャズというのは、思うほど難しいものではなく、単に慣れてないだけだと思ってください。ジャズのコードなどに興味のある方は、ジム・ケリーの「演奏能力ギター4」の6弦ルートと5弦ルートのアイデアも参考にしましょう。バークリーのテストでも使えますね(笑)。

■ Tomo'sお勧めリンク

- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ2」 →exercise 33、35
DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ3」 →exercise 26、27
CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」 →CD TRACK 18
CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 →改革29、30、31

variation 3 ■ 1弦トップによるトライアド・コードのアウトライン

■ 目標

これは先ほどのテンションとは反対で、4音の7thコードをシンプルな3音のトライアドにしたものです。基本的なコードの動きをトライアドで弾くので、転回形も含めて、かなりシンプルかつ深いコードの動きがコントロールできるようになり、このアイデアで各音をリズムに弾けば、ジャズのソロも難しいことを考えずに弾けるようになります。もちろん、他の曲にもすぐに応用がききます。

■ ポイント

メジャー7thとドミナント7thコードはシンプルにメジャーのトライアド(Root/Maj3rd/5th)、マイナー7thコードはマイナー・トライアド(Root/b3rd/5th)、マイナー7th(b5)コードは下からRoot/b3rd/b5thとなり、ディミニッシュのトライアドを弾きます。ですから、大きく分けて3つの種類でオクテーです。各トライアドは転回形でも、度数やポジションもしっかりマスターしましょう。

■ Tomo'sアドヴァイス

ここでは、1弦トップ(1・2・3弦)でプレイしていますが、他に2・3・4弦も非常に使いやすいし、3・4・5弦、4・5・6弦のパターンも重要です。書籍版「演奏能力」にはトライアドのセクションもありますので、参考にしましょう。Idea#1は、各コード3つの転回系を、前半は上行、後半は下行のパターンで考えた例です。Idea#2は、2小節フレーズで上行～下行、また下行～上行の動きのパターンです。いつもレッスンでも、自由に弾くためにこうしたパターンをマスターしています。トライアドというのは、シンプルですがパワフルです。

■ Tomo'sお勧めリンク

- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ2」 →exercise 23、25
DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ3」 →exercise 22、23、25
CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」 →CD TRACK 20、21、22、74、75、Part3の図表
CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 →改革23、24

variation 4 ■ ブルース/ロック風ペントニックでジャズ・プレイ

■ 目標

ジャズのソロと考えると、すぐにスケールや理論が大事やと思いがちですが、意外にシンプルでブルージーなペンタでも表現次第でジャズになってしまいます。この曲は、キーがGマイナーですから、単純にGマイナーのブルースとして弾いています。このアイデアで、今まで知っているフレーズをジャズにしてみましょう。

■ ポイント

シンプルと言っても弾き過ぎると、それだけコードと合わない部分も出てきます。Idea#1のコモン・トーンの表を見てください。コードに合う理由は、ペントニックの各音は、各コードに対して度数/カラーが変わりますが、コードとは常に合っているわけです。

■ Tomo'sアドヴァイス

フレーズは、1オクターヴ内で弾いています。音域は小さく、その中でリズムにテーマのようなアイデアを持たせます。“歌うフレーズ”が目的ですから、弾く前にフレーズが実際に口ずさめるかなどもチェックしてみてください。Idea#1は、同じ音が各コードに対して度数/カラーの違うコモン・トーンの例です。コードとペントニックの関係/響きを理解しましょう。Idea#2は、ジャズでもよくある、流れのあるコード進行に対して同じフレーズを押し通す、“熱いプレイ”のアイデアです。是非トライしてみてください。

■ Tomo'sお勧めリンク

- DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ2」 →exercise 17、18、19

CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」 →CD TRACK 70、71、72
CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 →改革25、29、30

■ variation 5 ■ ペンタ／リフ感覚で弾けるジャズ・フレーズ

■ 目標

ここではジャズのサックスの人がよく使う、ドミナン7th(b9)のソロ・フレーズ、Maj3rd、5th、b7th、b9thのサウンドをペンタトニック感覚で弾くアイデアを学びます。7音スケールで難しく考えず、この4音を使えば、リフ的にマイナー3rdでの移動もペンタトニックのように楽に弾けますし、これをマスターすれば、他のスタンダード曲も弾けるようになります。

■ ポイント

まずF7の部分で、Maj3rd、5th、b7th、b9thのアルペジオをゆっくり度数を感じながら学びます。また、D7上でも同じ度数のアルペジオのサウンドを良く理解してください。フレーズは、これに次ぐコードの音に解決するのが普通ですから、その辺りもよく学んでください。

■ Tomo'sアドバイス

ディミニッシュのアルペジオは、これ以外にもいろんなポジションや指使いが考えられますから、自分なりに研究しましょう。何よりコードが鳴らないとアドリブできませんから、コード、Root/3rd/7thを嫌になるくらい弾きましょう。Idea#1は、最初の3小節部分のツー・ファイヴ・ワン(II-V-I)進行で、F7はMaj3rdの音からディミニッシュ・アルペジオの全ての音をアナライズしました。Idea#2は8小節目のG7、#3は、5~7小節目のツー・ファイヴ・ワン進行の部分各音アナライズしました。やはり、度数/カラーは大切です。

■ Tomo'sお勧めリンク

DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ2」 →exercise 23、24、25、26、27
CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」 →CD TRACK 75、77
CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 →改革31、32

■ variation 6 ■ ウォーキング・ベースラインとコンピング

■ 目標

ここでは、ジャズのデュオとかでもよく使う、ウォーキング・ベースラインとコンピングを学びます。まず、ゆっくりベースラインだけを学び、そしてコード(コンピング)の部分も入れて学びましょう。これがマスターできると、他のスタンダード曲でも同じように弾くことができます。

■ ポイント

コードが弾きやすいフィンガリングが大事ですから、ただベースラインを弾くフィンガリングとは少し異なり、2の指(中指)を多く使います。なるべく左指が不必要に上がらないように注意してください。

■ Tomo'sアドバイス

ギターのボリュームをある程度大きくした状態で、ソフトに指弾きするようにして、常にダイナミクスを付けて表情豊かに弾きましょう。また、「演奏能力2」のPart 7も参考にしましょう。

■ Tomo'sお勧めリンク

DVD「ギタリストのための演奏能力エクササイズ2」 →exercise 28~32、33、34、35
CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」 →CD TRACK 58、59、60
CD付き書籍「ギタリストのための驚異の奏法改革」 →改革29、30、31、32

デモ演奏について

■ Opening Demonstration

最近ライブでもよくやる感じのファンキーなジャムです。オクターヴァーを使い、聴いてもらうとわかりますが、ボスのディレイのリピートでリズムを作り、弦を叩いてドラムのように、ディレイも楽器のように使っています。E1発のファンクから始まり、途中にBbのブルースになり、またE1発に戻しました。ギターはフェンダーのSRV。アンプは、67年製のプロ・リバーブです。(エミネンスのガヴァナーっていうスピーカーです)

■ ETUDE 1 Demonstration

ボスのループ・ステーションRC-20XLを使って、G7とC7のグルーヴを先に録音しておいて、その上にアドリブをやっています。バリエーションでやったアイデアを自由に使った例ですね。コード感をいつも出せることが大事です。通信レッスンでも、このやり方でパートの作り方などを紹介しています。ループ・ステーションは、今では生徒さんみんな持ってます(笑)。ギターとアンプは、オープニングのデモ演奏と同じです。

■ ETUDE 2 Demonstration

ここでも、ループ・ステーションで先にグルーヴを作っておいてから、それに合わせてコール&レスポンス的なフレーズを弾いて、そこからさらに重ねてハーモナイズしています。このように、想像できる部分を録音できるから、タイムやピッチのズレもわかり、とっても勉強になりますね。ギターはバッカスです。歯切れの良いトーンしてます。アンプは、僕の好みにモディファイしたFuchs 50です。Bob Burtが作ってくれたキャビネットとスピーカーは、プロトタイプのエミネンスです。

■ ETUDE 3 Demonstration

ループ・ステーションにベースラインを録音したものに、アドリブを弾いた例です。いつもトラディショナルなブルースからもっとジャズ的にもできますが、ここでは、なるべくシンプルでフィーリング溢れるプレイを心がけました。ギターは67年のギブソンES335(新聞配達で買った!)と、アンプは67年のプロ・リバーブです。シンプルなセット・アップで、フィーリング1発のプレイですね。

■ ETUDE 4 Demonstration

エチュードで使ったコード進行のジャズのソロ・ギターです。ここでは、無伴奏で弾いています。ルパートで始まり、しばらくしてテンポをセットして、全てアドリブで弾いています。これもコード感が出せることが非常に重要ですが、フィーリングで弾くことも大事です。ギターは、タク・サカシタさんが作ったヴァージョンRギターです。小さいフルアコですが、よく鳴ります。アンプは、Fuchs 50のヘッドとBob Burtのキャビネットです。

■ Ending Demonstration

ウォーキング・ベースラインとコンピングのデモ演奏です。ループ・ステーションには、2コーラスのソロだけ入れ、それに合わせてアドリブでウォーキングを弾きました。ですから、“相手に合わず演奏”の例です。感情表現として、相手の動きをどう受けとめるかが大切です。ギターは、サカシタさんのヴァージョンRです(ちなみに、ソロのギターはバッカスのストラトです)。

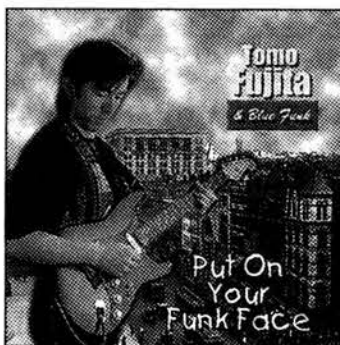
(Tomo uses : PICKBOY signature pick, D'Addario Strings EXL110, Planet Waves Cables)

■ トモ藤田ホームページ

<http://www.tomofujita.com>

日本語によるホームページ、音源、写真、日記、BBSなど情報満載!

■ トモ藤田CD紹介



『Put On Your Funk Face』
Tomo Fujita & Blue Funk
TFPCD/16252 ¥2,500
収録曲:①Crossing ②Burbank Street
③Song for Samantha ④Meltdown
⑤Just Funky ⑥Dreaming of You ⑦
Orange Juice&Water ⑧I Like Your
Smile ⑨Cat Walk ⑩I Have No Clue
⑪Don't Wake Me
メンバー:Tomo Fujita(Guitar), Dave Limina
(Organ,Piano), Mike Rivard(Bass),
Larry Finn(Drums)



『TOMO FUJITA』
来日記念ミニ・アルバム
TFPCD-16253 ¥1,000
収録曲:①Confidence Cat ②Curry
③Kyoto ④Mr.Mom (Slap Guitar)
メンバー:Tomo Fujita(Guitar),
Dave Limina(Organ,Piano),
Anthony Vitti(Bass), Larry Finn(Drums)

※入手御希望の方は、次頁<問い合わせ先>のいずれかに御連絡下さい。

サインがほしい方はトモ藤田まで直接メールをください。サインと譜面のおまけ付きで送ります。

■ トモ藤田の個人テープ・レッスン

トモ藤田が日本に住む人達を対象に、テープを使って各個人に対してカリキュラムを作り、個人のニーズに合わせてサポートする個人レッスンです。ですからあらかじめ作られたテープや同じ教材を送る通信講座とは、まったく違います。興味のある方は、直接Eメールかファックスでトモ藤田に連絡してください。

<システム>

①生徒→藤田:デモ・テープ郵送(あらかじめ内容指示します)

②藤田→生徒:デモ・テープに対するコメントを詳しく書いてファックスで送信。

その生徒に合ったレッスン課題をテープに録音して必要に応じた材料と共に郵送。

次回の課題内容を詳しく書いてファックス送信。

③生徒→藤田:ファックスの感想と課題内容の指示通りに練習を始める。

デモ・テープが届いたら模範演奏を聴く。課題内容をテープに録音して送り返す。

※以上を月1回のサイクルで繰り返すほか、課題内容や練習のポイントやわからないことはEメールやファックスなどでやりとりをする。

<レッスンの主旨>

生徒個人のペースによって内容は変わるが、どんな場合にも基本を重視してどんなスタイルにも対応できるように、テクニク的な要素だけではなく、フィーリングやグルーブといったエモーショナルな要素もバランス良く取り入れたレッスンにする。

<問い合わせ先>

トモ藤田

Fax: (国際電話認識番号)-1-508-651-1806 E-mail: music@tomofujita.com

(いずれも日本語で可)

日本国内の連絡先:株式会社タウンハウス(担当:宅間)

〒602-8432 京都市上京区猪熊通今出川上ル北猪熊町291番地

Tel: 075-441-6402 Fax: 075-441-8851 E-mail: a-takuma@townhouse.co.jp

『ギタリストのための表現能力開発エチュード』解説書

●著者・譜面作成:トモ藤田(Tomo Fujita)

●浄書:山岡 博(Hiroshi Yamaoka)

●翻訳:サム・カワ(Sam Kawa)

●DTP編集:ANTENNA

●企画制作:株式会社リットーミュージック

●無断複製・転載を禁じる

VWD-278